

高瀬まちづくり協議会

まちづくり活動の内容と成果



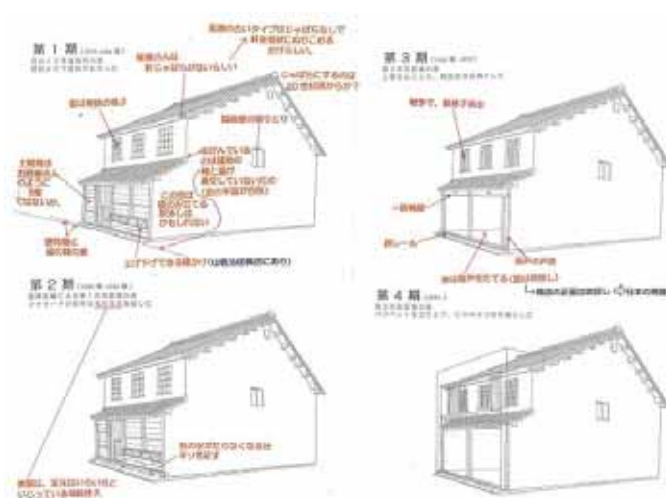
勉強会の様子

高瀬地区においては、全国の地方都市商店街の傾向と同様に、衰退が進んでいく中で、その状況を打開しようと商店会有志が集まり、平成 19 年に「高瀬まちづくり協議会」が発足しました。まちなみの整備と保全を目標に、まちなみ修景計画が作成され、3 回の全体勉強会を経て、翌平成 20 年に「高瀬地区景観形住民協定」を結ぶ運びとなり、具体的にまちなみ整備の指針が示されました。住民協定は知事認定を受け、工事に対して熊本県からの補助を受けることが可能になりました。



調査の様子

協議会発足から修景事業に取り掛かり、23 年度までに 7 件の物件を工事しました。工事の前には必ず事前調査を行い、建物が本来どのような形態で建っていたのかを解析します。この調査には文化庁の機関で、文化財建造物保存技術協会の方にボランティアで参加して頂き、文化財で行われているような調査～修景の手法をワークショップ形式で学びながら、外部団体と住民、さらに行政が一体となり取り組んでいます。写真に調査の様子・その調査から分析した変遷図を示します。



変遷図

その様な手法の中で大切にしている事は建物が本来どのような姿であったか・その後どのような変容があり現在に至っているかを調査し明らかにする事です。そして、その建物が一番輝いていた時代の姿に修景します。その建物の歴史を知り、本来の姿に戻すことがそこに住む人に自分のルーツを思い出し、衰退していった町・意気喪失していた住民の気持ちも原点に戻り、建物も住民の意気も、最も繁栄していた江戸・明治の頃の状態に戻していけたら、と考え取り組んでいます。

修景工事は、平成 20 年度の最初の物件から 23 年度までに 7 件の工事を完了させました。店舗が 3 件・個人宅が 4 件と、住民の理解と協力、そして各関係団体の支援による成果であると感じています。写真に過去の工事例を示します。

この取り組みが評価され、昨年度にはアートポリス事業とくまもと景観賞において賞を頂きました。この結果も町が活性を取り戻し、さらに今後の取り組みに対する意識を高めていく契機となればと考えます。



過去物件例

23 年度から新しい取り組みとして、まちあるきツアーも実施しており、「うろんころん高瀬」と銘打ち、商店を巡り歩き、高瀬地区の歴史・特産などを知ってもらう機会にしています。

地道な活動により、「しょうぶまつり」などの通年のイベントも年々観光客の増加が見られ、今後も活動の継続と新しい取り組みの計画・実施を臨みます。



うろんころん高瀬



しょうぶまつり